

平成 25 年度  
行政評価外部評価結果の対応方針

安曇野市

平成 25 年 11 月

# 目次

1	外部評価の実施概要	P 1	～	P 3
2	評価結果一覧	P 4	～	P 5
3	意見と今後の方針等	P 6	～	P 35
4	お問い合わせ先	P 36		

# 1 外部評価の実施概要

## (1) 外部評価の目的

安曇野市は、平成 19 年度から行政評価制度の構築を進め、毎年 400 前後の事務事業評価を実施してきました。一次評価は、事務担当者を含む所管課で、二次評価は、部局等の長が行い、さらに、これらの評価結果をとりまとめ、部長・課長等が中心となって施策評価を行ってきました。

こうした内部評価にとどまらず、評価結果が妥当なものであるのかを客観的に判断するため、平成 23 年度から学識経験者からなる外部評価委員会を設置し、内部評価を行った事務事業評価の一部の事業について外部評価を実施しています。

本市における外部評価は、この結果が最終的な事業の方向性を示すものではなく、評価委員から出された意見や質問に的確に回答することによって、今後の事業の進め方を職員が再度見直すために行っています。

## (2) 外部評価選定基準（平成 25 年度）

	選定基準	備考
A	決算の事業費規模が 5,000 万円以上の事業	事業費の規模が大きい事業については、説明責任も含めて透明化を図る必要があるため。
B	「総合評価」の評価点で、一次評価と二次評価の結果にギャップがある事業	評価の結果にギャップがあるので、外部の意見を聞いた方が良いと思われるため。
C	「今後の方向性」が、一次評価と二次評価の結果にギャップがある事業	評価の結果にギャップがあるので、外部の意見を聞いた方が良いと思われるため。
D	公的関与が 7 以上の事業	民間等でも事業が行える可能性の高い事業のため。
E	その他、外部からの意見を参考としたい事業	市民の関心が高く、外部の意見を聞いた方が良いと思われる事業のため。

※ 本年度は、外部評価委員会が 16 事業を上記選定基準に基づき選定しました。

### (3) 外部評価の実施

平成 25 年度の外部評価は、次のようなスケジュールで取り組みました。

月	日	曜日	事業	内容	関係者等
5	8	水	外部評価委員会 1	外部評価対象事業の選定	外部評価委員
5	14	火	外部評価委員会	対象事務事業シートの送付	事務局→委員
5	28	火	外部評価委員会	事業の質疑（メール・ファックス・電話）	委員（質疑）→事務局
6	3・4	月・火	ヘルプデスク	所管課職員向けヘルプデスク	事務局等→担当者等
6	18	火	外部評価委員会	事業の質疑に対する回答（紙資料） 補足説明資料（紙資料）	所管課→事務局→委員
6	26・27	水・木	外部評価委員会 2	追加資料を含め、課長・職員等の面談による説明 (26日・27日：8：45～16：15)	外部評価委員 市職員（課長、係長等） 説明者＝所管課長等
7	3	水	外部評価委員会 3	報告内容の検討	外部評価委員
7	10	水	施策評価の実施	部局の経営方針の作成 外部評価結果等の施策への検討	担当部局
7	12	金	外部評価委員会 4	評価結果の決定、報告書の提出	外部評価委員
7	19	金	報告書 公表	「平成 25 年度 行政評価 外部評価結果報告書」の公表	事務局→ホームページ
7・8	7/30 ～ 8/9	火～ 金	総合評価の実施	評価対象事業の総合評価の実施	庁議（政策会議）

#### (4) 外部評価の実施手順

6月26日～27日にかけて行われた外部評価（事業説明・質疑）は、次のとおりに実施しました。

- ① 事務事業評価シート及び補足説明シートをもとに、原則所管課長が15分間以内で説明を行う。
  - ② 説明後、評価委員から質疑を概ね25分間で行う。
  - ③ 質疑終了後、評価委員は、評価委員判定シートにその方向性等を取りまとめる。（5分間）。
- 以上、1事業45分間で16事業の外部評価を実施しました。

時間	6月26日（水） 前期 402会議室		6月27日（木） 後期 402会議室	
8:45 ～ 9:30	農林部 耕地林務課	・有害鳥獣対策事業 捕獲事業	総務部 危機管理室	・消防団運営事業 消防団組織見直事業
9:30 ～ 10:15	農林部 耕地林務課	・林業振興事業 長峰山森林体験交流センター事業	総務部 収納課	・収納管理事務 収納管理事務
10:30 ～ 11:15	農林部 農政課	・地域農産物の需要拡大事務 産直センター運営支援事務	教育委員会 学校給食課	・学校給食・管理事業 給食食材等購入業務
11:15 ～ 12:00	市民環境部 生活環境課	・交通安全対策事業	教育委員会 社会教育課	・社会体育施設管理運営事務 市内体育施設維持管理事業
13:00 ～ 13:45	健康福祉部 健康推進課	・予防接種事業 予防接種事業	都市建設部 建築住宅課	・耐震化の推進事業
13:45 ～ 14:30	健康福祉部 児童保育課	・特別保育事業 未満児保育事務	都市建設部 監理課	・道の駅管理事務 道の駅管理事務
14:45 ～ 15:30	上下水道部 下水道課	・下水道施設整備事業	健康福祉部 社会福祉課	・福祉医療給付事業 福祉医療給付事業
15:30 ～ 16:15	商工観光部 商工労政課	・商工振興事業 企業支援助成事業	堀金総合支所 地域支援課	・協働のまちづくり推進事業 つながりひろがる地域づくり事業

## 2 評価結果一覧

市職員（部長等）が実施する二次評価結果、外部評価委員会の評価結果及びそれらを受けて最終的に市が行った総合評価の結果を一覧にしてあります。

所管部・課	事業名	判定						
		拡大・充実	現状維持	方法改善	民間委託等	縮小	統合／終期設定	廃止／休止
農林部 耕地林務課	・有害鳥獣対策事業 捕獲事業			市				
農林部 耕地林務課	・林業振興事業 長峰山森林体験交流センター事業			市				
農林部 農政課	・地域農産物の需要拡大事務 産直センター運営支援事務			市				
市民環境部 生活環境課	・交通安全対策事業	市						
健康福祉部 健康推進課	・予防接種事業 予防接種事業			市				
健康福祉部 児童保育課	・特別保育事業 未満児保育事務		市					
上下水道部 下水道課	・下水道施設整備事業		市					
商工観光部 商工労政課	・商工振興事業 企業支援助成事業	市						
総務部 危機管理室	・消防団運営事業 消防団組織見直事業			市				
総務部 収納課	・収納管理事務 収納管理事務	市						
教育委員会 学校給食課	・学校給食・管理事業 給食食材等購入業務			市				
教育委員会 社会教育課	・社会体育施設管理運営事務 市内体育施設維持管理事業		市					

所管部・課	事業名	判定						
		拡大・充実	現状維持	方法改善	民間委託等	縮小	統合／終期設定	廃止／休止
都市建設部 建築住宅課	・耐震化の推進事業		市					
都市建設部 監理課	・道の駅管理事務 道の駅管理事務			市				
健康福祉部 社会福祉課	・福祉医療給付事業 福祉医療給付事業		市					
堀金総合支所 地域支援課	・協働のまちづくり推進事業 つながりひろがる地域づくり事業			市				

凡例

	=二次評価結果
	=外部評価委員会の評価結果
市	=総合評価（施策）結果

### 3 外部評価委員会の意見等と市の今後の方向性

外部評価を行った 16 事務事業の外部評価委員会の意見等に対する市の今後の方向性を示してあります。

番号	事務事業名	ページ
1	有害鳥獣対策事業	7～8
2	林業振興事業	9～10
3	地域農産物の需要拡大事務	11～12
4	交通安全対策事業	13
5	予防接種事業	14～15
6	特別保育事業	16
7	下水道施設整備事業	17
8	商工振興事業	18～19
9	消防団運営事業	20～21
10	収納管理事務	22～23
11	学校給食・管理事業	24～25
12	社会体育施設管理運営事務	26～27
13	耐震化の推進事業	28～29
14	道の駅管理事務	30～31
15	福祉医療給付事業	32～33
16	協働のまちづくり推進事業	34～35

## 1 有害鳥獣対策事業

基本事務事業名	事務事業名	有害鳥獣対策事業	捕獲事業
	一次評価の今後の方向性	現状維持	
	二次評価の今後の方向性	現状維持	
	外部評価の今後の方向性	方法改善	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣による被害の増大は、里山の環境変化による野生鳥獣の「都市化」現象、人獣近接居住圏の拡大が背景にある。従って、猟友会頼みの捕獲施策のみで効果を上げるのは不可能ではないか。農政課所管の被害防止策と組み合わせた総合的な施策体系の中に位置づけ直す必要がある。</li> <li>市（耕地林務課・農政課）として講じている対策の効果を検証するとともに、近隣市町村と連携した広域的な対応などの更なる効果的な対策の発現に向けた取り組みが必要と考える。</li> <li>有効性、達成度が低いにも関わらず、「現状維持」と評価されているのはおかしい。</li> <li>捕獲方法など改善の余地があるのではないですか。</li> <li>現行の施策では、今後も所定の効果は期待できない。鳥・獣別とか地域別とか被害原因の分析を行い、それに基づく重点施策を取って欲しい。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>農政課との日常的な連絡・連携が不足であるとの印象を受けた。</li> <li>平成24年策定の市農業・農村振興計画{アクションプラン}に掲げる実施施策の着実な推進とその検証による効果の発現に取り組むことが重要と考える。</li> <li>若い方（新規の方）の免許取得費等の補助を増やす等、もっと検討されてもよいのではないかと。広報ももっと必要ではないかと。</li> <li>「銃猟・わなの免許取得」の経費補助だけでなく、講習会等のPRも必要ではないですか。</li> </ul>	

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	方法改善
今後の対応方針	<p>農政課が所管する電気牧柵設置などの予防対策と、耕地林務課が所管しているくくり罠などによる捕獲対策を組み合わせ、より合理的な手段・方法を検討し、方法改善を図ります。</p> <p>共有の課題解決のため、隣接市村との広域連携による具体的な捕獲体制の構築を検討します。</p>
評価結果に対する考え方	<p>農林業の維持・継続と荒廃農地対策並びに安全な農村環境保全のため、必要不可欠な事業であると考えます。</p> <p>評価の意見などは真摯に受け止め、農業者や地域住民と猟友会の連携による捕獲対策を構築していきます。</p>
今後の事業の進め方	<p>総べての有害鳥獣類を一斉に捕獲するのではなく、年次計画で重点的に捕獲すべき鳥獣を定め、効果的な捕獲方法を検討の上、集中的に実施します。</p> <p>増え続けているニホンザルについて、出没する個体数の生息場所や絶対量を把握し、専門家の指導を受けながら、より効率的な捕獲手段を検討します。</p> <p>まだ個体数が少ない西山山麓のニホンジカ・イノシシについて、隣接市村と情報を共有し、具体的な捕獲手段を検討・実施していきます。</p>

## 2 林業振興事業

基本事務事業名	事務事業名	林業振興事業	長峰山森林体験交流センター事業
一次評価の今後の方向性		現状維持	
二次評価の今後の方向性		現状維持	
外部評価の今後の方向性		方法改善	
今後の方向性に対する外部評価委員会の意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセスや利用期間の問題があり、交流センターに収益性を期待するのは無理である。そのことを前提として、体験交流という本来の施設の設置目的に即した事業活動の展開が必要である。</li> <li>現状の施設の維持管理による事業の継続ではなく、展望や周辺環境等の好条件を活かした事業の再構築を検討すべきと考える。</li> <li>施設の老朽化が進んだ時の施設をどうするのか考える必要があると思います。今の施設の規模では収益の上がる事業は難しいのではないかと思います。</li> <li>運営のコンセプトがはっきりしておらず、今後の方向付けもよくわからない。高額な指定管理料を払っているが改善の施策も見当たらず、このままだと何時までも払い続ける事になるだろう。立派な展望台もあるので、シンプルに里山の自然を楽しむだけの施策にして、経費の大幅削減を図ったらよいと思います。</li> </ul>	
その他の外部評価委員会の意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>都市部市民への体験機会提供事業という原点に立ち返り、他の観光資源と組み合わせた広域的な取り組みの一環として位置づけ直す必要があるのではないかと。</li> <li>指定管理方式にこだわる必要はないのではないかと。</li> <li>事業効果の発現からして、現行の事業費の負担を続けることに疑問を感じる。</li> <li>コテージ1棟いくらという価格設定・・・人数（利用者）割増は検討に上がってきていないのか。</li> <li>今後は収益事業として果たして適切な事業か疑問もある。展望台だけでも良いのでは？</li> </ul>	

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	方法改善
今後の対応方針	<p>施設は木造構造で築後 17～18 年経過しているため、設備の交換などが毎年発生しています。</p> <p>指定管理期間が満了となる平成 30 年度を目途に、管理・運営方法を含めた改善を図りたいと考えています。</p>
評価結果に対する考え方	<p>市内唯一の森林体験交流施設であり、森林の有する多面的機能の学習や体験をするために必要な事業と考えます。</p> <p>評価の意見の大半が的を得ていて、今後の対応方針の参考となります。</p>
今後の事業の進め方	<p>立派に再築された長峰山山頂休憩展望施設からの眺望を市内外にPRし、天平の森の利用客の増加を図ります。</p> <p>施設に通じる林道は、明科・豊科方面何れからも大型車両の通行が困難であるため、改良などを検討し、施設への利用者増加を図ります。</p> <p>長年長峰山周辺で里山整備などの活動を行っているNPO法人の活動拠点として、本来の目的である「森林体験・交流」を推進していきます。</p>

### 3 地域農産物の需要拡大事務

基本事務事業名	事務事業名	地域農産物の需要 拡大事務	産直センター運営支援事 務
	一次評価の今後の方向性	民間委託等	
	二次評価の今後の方向性	民間委託等	
	外部評価の今後の方向性	方法改善	
	今後の方向性に対する 外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実態はプラザ安曇野に対する補助事業となっており、首都圏向け農産物の販売拡大という事業目的との間に乖離がみられる。産直センターの業務として挙げられているものは、実際にはプラザ安曇野の業務として実施されており、センターは組織的実体を欠いているので、抜本的な組織・体制の見直しが必要である。</li> <li>・ 当該センターの取り組みからは、農業の振興、農作物のブランド化等の成果の発現は期待できなく、市が設置している直売所の活用等の別の方策を検討すべきと考える。</li> <li>・ 二次評価の有効性で「適切とはいえない」としている（一次評価は「言える」としている。）</li> <li>・ 市内のそれぞれの直売所間の連携を考え、産直事業を運営していくのが、市としての事業ではないかと思えます。野菜の宅配方法、アンテナショップへの発送等改善する余地があると思われる。</li> <li>・ 現行施策で安曇野農産物のブランド化又は首都圏での採算が合うまでの販売拡大は望めない。将来構想とその達成時期を明確にして、それに向けてのロードマップを作るべき。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラザ安曇野では農産物を買っているため、農家に対するインセンティブが働きづらい。</li> <li>・ 組織実体のないセンターに対する職員の派遣は、民間セクターであるプラザ安曇野に対する公費による職員派遣と同視され得るので、コンプライアンス上極めて問題である。</li> <li>・ 事業内容の見直しを求む。</li> <li>・ 産直センターの位置付けが、かなりあいまいであるが、今後も支援を継続するならセンターの立ち位置を明確にすべきである。</li> </ul>	

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	方法改善
今後の対応方針	<p>安心安全な農産物の供給を掲げて発足しており、今も理念は変わっておりません、直接取引の農家からの集荷・直売所連絡協議会よりの顔の見える農産物の集荷等を行い、安曇野の新鮮な野菜等を都市圏へ届け続けていきます。ただ、全体事業を将来は行政が支援するのではなく、PR事業以外のものについては独自の事業経営で行えるように筋道をつけていきます。</p> <p>都市圏へ向けた情報発信の事業展開が提案できる体制を産直センターが立案できる体制を整備し、安曇野市全体を見渡した事業に対する支援を実施していきます。</p>
評価結果に対する考え方	<p>安曇野産の農産物の認知度を上げていくためには必要な事業と考えます。</p> <p>評価の指摘事項については真摯に受け止め、支援の内容とプラザの事業について明確にすみわけを行い、安曇野市全体のPR事業に対しての事業支援を行っていきます。</p>
今後の事業の進め方	<p>産直センターの立ち位置を安曇野の農産物・農産加工品の情報発信機能を最大限生かすことに特化し進めていきます。</p> <p>一自治体としては単独のアンテナショップの経営は困難なため、共同での都市圏でのアンテナショップへの安曇野産農産物の供給、またイベント参加で人的交流のPR等を行う機関としての事業の推進に取り組みます。</p>

## 4 交通安全対策事業

基本事務事業名	事務事業名	交通安全対策事業
	一次評価の今後の方向性	拡大・充実
	二次評価の今後の方向性	拡大・充実
	外部評価の今後の方向性	現状維持
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局の統合等への取り組みを含め現状維持と受け止める。</li> <li>保育園、幼稚園等での安全教室（歩行）小学生への自転車の安全教室等、「自分の身は自分で守る」ということは教えていただきたい。また、高齢者への安全教室も必要ではないかと思えます。</li> <li>概ね妥当な事業展開だと思料します。</li> </ul>
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>安協各支部の各年の活動内容に関係なく、毎年同額を補助しているが、内容確認の上支給金額を設定すべきです。</li> </ul>

### 今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	拡大・充実
今後の対応方針	安曇野市交通安全推進計画を機軸にソフト面、ハード面を関係部局と調整を図り更なる交通事故の抑制に努めていきます。
評価結果に対する考え方	外部評価では、「現状維持」となっていますが、「安全・安心なまちづくり」を標榜する本市の政策（交通安全対策事業）としては、「拡大・充実」を図っていきます。
今後の事業の進め方	<p>保育園、幼稚園、小中学校で開催する交通安全教室においては、スケアード・ストレイト方式（スタントマン等による事故の再現で恐怖を実感することにより危険行為を未然に防ぐ教育手法）を取り入れた交通安全教育を積極的に実施し、児童、生徒一人ひとりが、交通安全に対して自ら考えることができる交通安全教室の充実に努めます。</p> <p>また、高齢者宅を中心に行う家庭訪問により個別の交通安全指導を強化していきます。</p>

## 5 予防接種事業

基本事務事業名	事務事業名	予防接種事業	予防接種事業
	一次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	二次評価の今後の方向性	方法改善	
	外部評価の今後の方向性	方法改善	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 費用の大部分は実施医療機関への委託料である。当該委託料は委託先との契約により決定されているが、交渉により金額を下げることは可能と思われるので、その点について改善を求めたい。</li> <li>・ 情報の収集、伝達や住民個々の実情への対応など多大な苦勞を伴うが、他自治体の実態等を把握する中で最小限の経費で最大の効果が発揮できるよう努力されたい。</li> <li>・ 委託先の単価契約について双方よく検討の上契約をした方が良いと思われる。</li> <li>・ 第二次評価で挙げているノウハウ、実施手段などに方法改善を考える余地はあると思いますが、対象者にとって一番良い方法であってほしいと思います。負担が最小限である方法をお願いします。</li> <li>・ 巨額な費用を扱う事業なので、今後他市町村との連携を密にするなどして、少しでも費用を抑える工夫をお願いしたい。また、必要な予防接種は漏れなく必要な人が受けられるようお願いする。その為には各アイテムの接種率も管理し、対策につなげてほしい。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最近、国の方針が目まぐるしく変わる中で、少人数で良く管理していると思いますが、人の命にかかわる事なので、今後とも適切なタイミングでの業務処理に心がけてほしい。</li> </ul>	

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	方法改善
今後の対応方針	<p>予防接種を受ける方の立場に立つとまず安全性という点があげられると判断されます。それには、情報を的確に提供することが重要です。</p> <p>国の動向等を早期に入手し、市民に分かりやすく、的確な判断ができる情報を提供するとともに、安心して接種できる環境の整備に努めていきます。</p>
評価結果に対する考え方	<p>外部評価委員会からは、「方法改善」とした市の2次評価の方向性と同じ意見をいただいたことから、予防接種の費用面や対象者に接種しやすい環境づくりを関係団体等と調整しながら進めていきます。</p>
今後の事業の進め方	<p>国の法律改正の影響が大きいことから、制度がめまぐるしく変動しています。上記の今後の対応方針にも記述しましたが、情報の収集と提供が重要な位置を占めています。</p> <p>早期の対応をするとともに、関係団体等と連携を図りながら市民の皆さんが接種しやすいように事業を進めていきます。</p>

## 6 特別保育事業

基本事務事業名	事務事業名	特別保育事業	未満児保育事務
	一次評価の今後の方向性	現状維持	
	二次評価の今後の方向性	現状維持	
	外部評価の今後の方向性	現状維持	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行は、一定の余裕をもった取り組みができていた状況にあり、更なる保育需要の拡大にも対処できる状態にあることから引き続きスタッフの確保等に配慮しながら事業の円滑な推進に努められたい。</li> <li>・ 未満児保育を希望する対象者にとってやさしい事業であってほしいと思います。柔軟性のある事業運営を望みます。</li> <li>・ 待機児童無しの状態が続いており、このまま進んで欲しい。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世の中の変化は敏感に読み取り、市の入所要件については、市民ニーズに適合するように、常に修正される事をお願いしたい。</li> </ul>	

### 今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	現状維持
今後の対応方針	今後も未満児保育を希望する家庭に対応できるよう、人的な確保とともに施設の充実を図っていきます。
評価結果に対する考え方	評価委員会の意見を踏まえて「現状維持」としたい。
今後の事業の進め方	施設面では保育園の改築にあたり、未満児保育に対応できる施設の建築を進めていきます。

## 7 下水道施設整備事業

基本事務事業名	事務事業名	下水道施設整備事業	
一次評価の今後の方向性			現状維持
二次評価の今後の方向性			現状維持
外部評価の今後の方向性			現状維持
今後の方向性に対する外部評価委員会の意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>下水道施設整備事業も終盤を迎え、順次事業効果の発現が図られている状況にあることから、合併浄化槽による取り組み等の計画の見直しを含め、引き続き適正な事業の執行に努められたい。</li> <li>平成 27 年度第 1 次整備完了を目指して、順調に進んでおり、予定通り進めて欲しい。最後の市周辺部は合併浄化槽との費用比較を行い整備計画への適切な反映に努められたい。</li> </ul>	
その他の外部評価委員会の意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>合併浄化槽を推進すべき地域地区との関係を見据えた計画見直しを不断に行われたい。</li> </ul>	

### 今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	現状維持
今後の対応方針	合併処理浄化槽との費用対効果の検証を行いながら、計画区域の整備を進めていきます。
評価結果に対する考え方	合併浄化槽による取り組み等の計画の見直しを含め、引き続き適正な事業の執行に努めていきます。
今後の事業の進め方	外部評価委員会から頂いた意見を踏まえ、平成 27 年度第 1 次整備完了を目指します。

## 8 商工振興事業

基本事務事業名	事務事業名	商工振興事業	企業支援助成事業
	一次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	二次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	外部評価の今後の方向性	拡大・充実	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市の発展にとって必要かつ重要な事業であるので、さらに充実を図られたい。</li> <li>・ 平成 22 年に策定された「安曇野市工業振興ビジョン」に基づく市の重点施策に位置付けられた事業であり、市外企業の積極的な誘致をはじめ各企業や関係団体と連携した取り組みにより、市産業の一層の発展が図られるよう努められたい。</li> <li>・ 新しいビジョンに基づいた助成制度の充実を図ってください。</li> <li>・ 事業所数の減少、企業従業員の減少が続く中で、企業の誘致・留置は喫緊の課題である。どんな施策が企業のニーズに合致するか、入念な調査を行い、思い切った施策を打つことを期待する。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見		

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	拡大・充実
今後の対応方針	<p>国においては、脱デフレを政権の軸に据える安倍内閣の登場によって金融緩和策や成長戦略が講じられてはいますが、まだまだ市内の中小企業者までは、その恩恵が行き届いていない状況です。</p> <p>こうした厳しい環境が続いている中、企業等への支援などにより市内産業の活性化を図っています。本年度から、市総合計画後期基本計画が施行され、個人からも企業からも「選ばれる自治体」となることで、地域経済の益々の活性化や雇用促進を図っていきたいと考えています。</p> <p>そのためには、企業を取り巻く環境がめまぐるしく短期間で変化している中で、工業振興ビジョンの推進と見直しを進めるとともに、積極的に企業の状況把握に努め、どのような支援策が企業に必要なのか検討していきます。</p>
評価結果に対する考え方	<p>外部評価委員会から今後の方向性を拡大・充実をという評価をいただきました。</p> <p>企業ニーズに合致した助成制度の見直しや新たな制度の創設により、企業誘致や市内企業の留置策を進めていきます。</p>
今後の事業の進め方	<p>企業訪問や景気動向調査等により、企業の状況把握や企業間のコーディネートを引き続き進め、既存の助成事業の推進と必要となる支援策（助成事業）を検討します。</p> <p>また、安曇野の地域資源を活用した異業種連携による新たな産業への助成制度の創設も併せて検討していきます。</p>

## 9 消防団運営事業

基本事務事業名	事務事業名	消防団運営事業	消防団組織見直事業
	一次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	二次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	外部評価の今後の方向性	方法改善	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐震補強工事の実施と消防団組織の再編という本来別のカテゴリーに属する事業を、無理に一つの枠で行おうとしていることには無理がある。</li> <li>消防団組織の見直しは、構成する人的要素をもとに管轄エリアの世帯等の住環境の状態から判断すべきもので、詰所等の施設や装備品の更新等の要否を直接の要因とすべきものではないと考える。</li> <li>消防団施設については、優先して耐震化を進めるべきだと思う（H26年度に耐震補強工事すべて終了でよいのか？）</li> <li>消防団組織の見直しと詰所の耐震化は、異なる事業ではないかと思えます。目標値は、消防団組織の将来に向けての数値（団員数・分団数など）が適切ではないかと思えます。市民ニーズの高い事業であり、早期の見直しが必要かと思えます。詰所耐震化も同時に別事業として行ってほしいと思えます。</li> <li>組織の見直しは耐震化とは切り離して見直しを進め、あるべき組織体制を考えて貰いたい。そのあるべき体制に必要な詰所はどの場所にどんな規模のものを作ればよいかを想定し、それに現在の詰所を照らし合わせ、どの詰所を残し、どの詰所を廃棄すべきか、又は新規の場所に新しい詰所が必要かなどについて検討されたい。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>そもそも事業評価の対象が不明確である。</li> </ul>	

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	方法改善
今後の対応方針	方法改善により、カテゴリーを別にしたうえで、各々事業として推進していきます。
評価結果に対する考え方	評価対象事業内容を方法改善したうえで、拡大・充実を進めていきます。
今後の事業の進め方	<p>いつ起こるか分からない災害に対して、市民の安全・安心を守る消防団関係整備、特に耐震補強工事は年次計画により進めます。</p> <p>また、消防団組織の見直しは、団員数の根拠等を明確にし、組織体制の整備を図っていきます。</p>

## 10 収納管理事務

基本事務事業名	事務事業名	収納管理事務	収納管理事務
	一次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	二次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	外部評価の今後の方向性	方法改善	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象事業は収納事務なのに、シートにはコンビニ納付推進事業に関する記載がないので、適切な評価は困難であるが、コンビニ納税率の向上が納税率全体の向上とリンクしているとは必ずしも言えない。今後は口座振替等他の方法による納税率向上策も併せ実施すべきである。</li> <li>コンビニ収納に特化した事務事業評価ではなく、納期内納税をはじめ収納率向上につながる収納方法全般を対象に費用対効果の検証を含め取り組むべきと考える。</li> <li>本来は口座振替を充実（推奨）すべきと考える。確実性、効率性等より。</li> <li>収納業務としてコンビニ収納を構築し、納税の機会を拡大させたことは評価できると思います。しかし、収納率が85%を超えこれ以上の収納率の向上は、少ないと思われます。これからは、コスト削減の方法を模索していただきたい。手数料の少ない口座振替への切り替えをアピールすべきかと思います。将来、財政を圧迫するようであれば、手数料の納税者負担も視野に入れる時が来るかも知れません。そうならないよう願っています。</li> <li>コンビニ収納も定着しつつある。今後の進め方としては、費用面からみても、安全面からみても第一義的には口座振替に誘導すべきである。コンビニ収納はあくまでもサブの手段との位置付けでの推進だと思う</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>口座振替の優位性を改めて認識され、その促進に向けた取り組みを期待したい。</li> <li>評価シートは、コンビニ収納のみを対象としている。予算事業費は収納管理事務全体を評価対象としている。</li> </ul>	

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	拡大・充実
今後の対応方針	税負担の公平性と自主財源確保のため、収納方法、収納体制を整備していきます。
評価結果に対する考え方	評価対象事業内容を方法改善したうえで、新たな取り組みを模索しながら、継続して取り組み内容の見直し、改善を図り、納期内納付の強化を図っていきます。
今後の事業の進め方	<p>外部評価委員会から頂いた意見を踏まえ、安心・確実性の高い口座振替を納期内納付の基本手段として位置づけて、広報あずみの・市ホームページなどによる啓発活動をより推進して、口座振替率の向上を目指していきます。</p> <p>また、納付機会の拡大、利便性の向上を図るうえで有効な納付手段であるコンビニ収納についても引き続き推進し収納率の向上を図っていきます。</p>

## 11 学校給食・管理事業

基本事務事業名	事務事業名	学校給食・管理事業	給食食材等購入業務
	一次評価の今後の方向性	現状維持	
	二次評価の今後の方向性	現状維持	
	外部評価の今後の方向性	方法改善	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同購入品目の拡大を図る必要がある。例えば、保存食品等。また、品目設定に際して外部意見を取り入れる仕組みが必要である。</li> <li>安全・安心、地産地消、食育等に対する認識と費用対効果やコスト面、調理の効率性等の要素の両面を加味した事業運営が求められている。また、私費会計とする給食費をもとに運営する事業であることから、一定の基本的方針をもとに第三者をはじめ幅広い意見を取り入れたより開かれた事業の推進が必要と考える。</li> <li>共同購入品の拡大をお願いします。納入業者が数社あっても、価格の統一は出来るのではないのでしょうか。（調味料・乾物・缶詰・冷凍食品など）毎月各センターの得意メニューを統一メニューとすれば、月4回、単純計算でも年間48回の統一メニューが可能かと思えます。異なる視点から考える為に、外部の意見を取り入れる会議を提案します。</li> <li>共同購入を拡大しようとする意欲に欠ける（目標が小さい）。どんな物品でも多量購入程価格が下がります。4品の共同購入で5,350千円値引きできた実績がその事を証明しております。出来ない理由はいろいろあるようですが、それを工夫し、克服するのが業務だと思えます。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養士同士の考え方を調整（話し合う場所、機会等をセッティング）する必要があるのではないかと。まだまだコスト削減の余地、方法はあるものと思われる。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 納入業者の選定にあたって、栄養士や市は“地元”を安曇野市ではなく、各地区ととらえている。市民感覚と少し違うのでは？</li> <li>・ ①材料費、運営費を合わせると八億円を超える大きな事業です。給食製作拠点は4ヶ所あっても管理はできるだけ統一し、パイを大きくして、共通項目を増やしていけば、少ない費用で豊かな給食にかえていけると思います。又管理の簡素化にもつながると思います。</li> <li>②また、安心安全のために国内産を多用する事はよいことだと思いますが、国内に絞って購入してもまとめ買いの効果は大きいと思います。</li> </ul>
--	--

#### 今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	方法改善
今後の対応方針	他の自治体の状況を調査して品目選定の参考にして、品目の拡大、統一献立回数増加の方向で、栄養士とともに再検討していきます。
評価結果に対する考え方	<p>地域特有の献立は、地域文化の伝承という食育の観点からは必要です。</p> <p>安曇野市全域をエリアと捉えて全域から食材を調達することも必要ですが、地域の生産者との連携、地元業者の育成という観点からは、ある程度の地域性を持たせてもよいと考えます。</p> <p>個々の取引業者は9,500食の食材調達には負担が大きいことから、取引が分散されることにより、地元業者であっても対応が可能となっています。</p> <p>価格面のみからの発注であれば一部業者に集中し、市場等から仕入れた県外産食材が多くならざるを得ません。</p> <p>野菜等は、できる限り新鮮な食材を使うことを目標としているため、努めて地元を優先したいと考えています。</p> <p>手づくり給食推進のため、冷凍、缶詰、レトルト食材については最小限の使用としたいものです。</p>
今後の事業の進め方	給食費の有効使用と給食献立の地域性、手作り感等のバランスをとりながら、共同購入品目の拡充等を図っていきます。

## 12 社会体育施設管理運営事務

基本事務事業名	事務事業名	社会体育施設管理運営事務	市内体育施設維持管理事業
	一次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	二次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	外部評価の今後の方向性	現状維持	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の安全確保の面からも大変重要な事業と受け止めているが、事業評価に当たり対象施設の実態、事業の現状等を理解するうえで必要な内容に乏しく、今後の方向性が判断し難いことから現状維持とした。</li> <li>・ 市民ニーズの高い事業です。維持管理方法を模索中と推察しました。より良い方法を見出されるよう期待します。</li> <li>・ 現在の管理レベルを維持するだけの管理で、市民にとって利便性が向上するとか、費用対効果が改善すると言った変化は認められない。特に22年、23年のデータ提示がないため、経年変化（年を追うごとに何か向上しているか否か）を読み取ることもできない。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理業務が施設の物的側面に偏っているので、利用率の把握や中長期的な観点からの業務見直し等の視点が欠けているのは問題。</li> <li>・ 市民の当該施設等の利用ニーズはますます高まる状況にあることから、安全、安心面はもとより施設の長寿命化に資する計画的な対策を講じる必要があると考える。</li> </ul>	

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	現状維持
今後の対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算執行及び施設管理の一元化が、平成 25 年度から始まったところです。利便性、安全性に配慮しながら、より効率のよい維持管理の方法を研究していきます。</li> <li>・ 一元化によるメリットを生かし、施設整備計画、予約システム構築への足がかりとします。</li> </ul>
評価結果に対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会体育施設については、50 数施設あり、老朽化の進んでいる施設もあります。 また、学校の開放施設も管理していることから、併せて市民に安全に利用していただくための維持管理をしていきます。</li> <li>・ 予約システムについても、一元管理することにより、運用面での見直しを行い、利便性を図ります。</li> <li>・ 一元管理することにより、全市の社会体育施設整備計画を策定し、中長期的な施設整備と共に、施設の統廃合、延命化についても検討していきます。</li> <li>・ 一元管理については、始めたばかりで、まだ費用対効果のメリット等については数値として見えてきていません。しかし、効率的な面では十分メリットがあると考えられますので、市民にとってより使いやすい施設管理となるよう研究しながら、維持管理に努めていきます。</li> </ul>
今後の事業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 25 年度予算から一元管理を行ったところですので、今後、他市の状況等も参考にしながら、課題等様々なことについて、一つひとつクリアしながら事業を進めていきます。</li> </ul>

### 13 耐震化の推進事業

基本事務事業名	事務事業名	耐震化の推進事業
	一次評価の今後の方向性	拡大・充実
	二次評価の今後の方向性	拡大・充実
	外部評価の今後の方向性	現状維持
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の方向性において「拡大・充実」とされているが、現行の制度、規模が拡充されるのではなく、現行の目標達成に向けて制度の重要性とその利用の促進を積極的に啓発していくとした内容であることから「現状維持」と判断する。</li> <li>事業の推進のために、苦心されていることが理解できました。よりいっそう市民への事業の浸透を図ってください。</li> <li>国、県からの一部補助事業でもあり、近隣市町村との兼ね合いもあり、更には応募者の現況にも鑑み、平成27年度を最終目標とする現在の計画を予定通り推進することを第一義的に考え、現状維持とした。</li> </ul>
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の計画を完全実施しても、それは全対象家屋の一部であり、多くの要耐震補強工事家屋は自力で補強する事になるので、その人達に対する工事促進の働きかけが重要になると思います。</li> </ul>

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	現状維持
今後の対応方針	<p>平成 27 年度の最終目標の達成のため、住宅の耐震化の推進には、市民が住宅の耐震化や防災対策を自らの問題又は地域の問題として捉え、自助努力により取り組むことが重要であることから、事業対象となる昭和 56 年 5 月 31 日以前に着工された、市内に存する現に居住している木造在来工法の個人所有の住宅への支援として、広報・ホームページへの掲載、自主防災組織等への啓発活動、簡易診断・精密診断の結果送付にあわせた耐震補強工事補助の説明書等の送付、協働のまちづくり出前講座『わが家の震災対策』の開催により住宅の耐震化の重要性を理解してもらうとともに、木造住宅耐震診断事業、木造住宅耐震補強工事補助事業の PR を行います。</p> <p>耐震補強工事实施による所得税の特別控除・固定資産税の減額についても説明し事業の実施を促します。</p>
評価結果に対する考え方	<p>地震災害に対して、市民の生命・財産を守るためには住宅の耐震化が重要なことを、広く市民に浸透させ、あわせて木造住宅耐震診断事業、木造住宅耐震補強工事助成事業についても啓発していくことにより、木造住宅耐震診断事業、木造住宅耐震補強工事助成事業の目標件数実施が図れると考えます。</p>
今後の事業の進め方	<p>広報・ホームページ等あらゆる媒体を用い情報を発信することで、住宅の耐震化に対する住民意識を向上させ、木造住宅耐震診断事業、木造住宅耐震補強工事補助事業を住民に広く周知をすることにより、平成 27 年度の最終目標達成に努めていきます。</p> <p>また簡易耐震診断において地震災害に対する安全性が充分でないと診断された方には、さらに詳しい精密耐震診断の実施を促し、精密耐震診断において耐震補強工事を行うことが望ましいと診断された方には、耐震補強工事实施に向けて実際に補強工事を実施された方の実例や満足度や声を伝えることができるようなフォローアップを積極的に行っていきます。</p>

## 14 道の駅管理事務

基本事務事業名	事務事業名	道の駅管理事務	道の駅管理事務
	一次評価の今後の方向性	方法改善	
	二次評価の今後の方向性	方法改善	
	外部評価の今後の方向性	方法改善	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トイレと駐車場の所管課を農政課に移すこと等を含め、管理運営方法を再検討する必要がある。</li> <li>・ エリア内の物産センターが道の駅の登録施設と農政課所管の指定管理施設としての両面を持っていることによる弊害が課題となっており、これに対処すべく検討が進められている状況にあるため、方法改善とした。</li> <li>・ 今後の方向性として、方法改善を選択されており、妥当かと思われます。堀金物産センターに維持管理を任せることが、最善の方法かと思います。2者が合意されることを期待します。</li> <li>・ 管理の一元化に向けての改善が、長年の懸案事項でありながら、具体的に進んでいない。タイムスケジュールを決めてそれに則った管理を行い、早期に実施すべきである。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見		

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	方法改善
今後の対応方針	<p>施設利用者にとって、他の道の駅と同様に特産物販売所や食堂などの施設を合わせた一帯を、「ほりがねの里道の駅」と捉えて利用されていると思われ、堀金物産センターの管理と、トイレ・駐車場等の管理が分かれている現状は、施設修理等の即応性に欠けるだけでなく、利用者には不便な状況があるため、事務の効率性からも一元化を行います。</p>
評価結果に対する考え方	<p>外部評価委員会からは「方法改善」とした市の方向性と同じ意見をいただいたことから、早期に管理一元化に向けた調整を進めます。</p>
今後の事業の進め方	<p>堀金物産センターの指定管理者である、農事組合法人旬の味ほりがね物産センター組合に道の駅施設の管理を委託する方向で、協議を進めます。</p>

## 15 福祉医療給付事業

基本事務事業名	事務事業名	福祉医療給付事業	福祉医療給付事業
	一次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	二次評価の今後の方向性	拡大・充実	
	外部評価の今後の方向性	現状維持	
	今後の方向性に対する外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>給付対象者の範囲は現状が適切である。</li> <li>他の自治体の動向等を踏まえて制度適用対象者の拡大も視野に検討を進める必要があるとした現状からは、「拡大・充実」に向けた方向にあるとは判断し難く、「現状維持」とした。</li> <li>福祉医療給付は、市が実施する必要性の高い事業です。現在、県の指針以上の給付行われています。費用対効果を念頭に、コストと必要性のバランスを考え、今後も取り組んでいただきたいと思います。</li> <li>この制度の趣旨は大いに同感できる。また対象者の経済的負担軽減にも常に気を配る必要がある。一方で市の財政負担も大きなものがあり、対象者の要望通りに範囲を拡大したり、給付を厚くすればよいというものでもない。アクション欄で述べられているとおり、県や近隣市町村との連携を密にして、レベル合わせを図りながら対応していくべきだと思う。その意味で現状維持とした。</li> </ul>	
	その他の外部評価委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>シート達成度欄に「対象者の健康保持と福祉増進に寄与していく」と、また補足説明資料中に「早期治療を促すことができ重症化を防ぐ効果がある」としているが、対象外の者との比較や具体的な効果が分かる説明等が欲しかった。</li> <li>第二次評価の意味がわからない(妥当性)。</li> </ul>	

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	現状維持
今後の対応方針	市が実施することの必要性、事業の妥当性は理解されたものと判断しています。コストと必要性のバランスを考えながら対応していきます。
評価結果に対する考え方	外部評価委員会のご意見を踏まえて、「拡大・充実」の方向性から、当面は「現状維持」とします。
今後の事業の進め方	対象者の経済的負担軽減にも気を配る必要がある一方で、市の財政負担も大きなものがあり、対象者の要望どおりに範囲を拡大したり、給付を厚くしたりすればよいというものでもありません。県や近隣市町村との連携を密にして、レベルを合わせながら対応していきます。

## 16 協働のまちづくり推進事業

基本事務事業名	事務事業名	協働のまちづくり推進事業	つながりひろがる地域づくり事業
一次評価の今後の方向性		方法改善	
二次評価の今後の方向性		方法改善	
外部評価の今後の方向性		方法改善	
今後の方向性に対する外部評価委員会の意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>補助対象団体の選考を支所ごとに実施する方法は、地域横断的な活動を行う団体等に対する対応が不十分になるおそれがあるので、市において一元的に実施する方が望ましい。</li> <li>今回の評価に当たり、堀金総合支所管内で取り組んだ事業が選定されたものであるが、本来、当該事業の補助金交付要綱に基づいて市内全域における活動を対象としているものであり、本評価制度の趣旨からしても総合支所単位の評価は適切ではない。 ただ、本事業が市の重点施策とされる「市民と行政の協働」に向けて、市民活動を育成。支援するうえで重要な役割を担う事業であることから、実態に即した制度となるよう運用面を含めて改善を行い、更なる効果の発現を目指されたい。</li> <li>今後の方向性として方法改善を選択されており、妥当かと思えます。今までは、旧町村単位の総合支所で行われてきた事業と推察します。県の事業とのバランスを考え、選考等一本化が図られるよう期待します。</li> <li>目標も甘く、2次評価者の妥当性評価は“次年度以降実施する緊急性は認められない”と事業そのものを否定するような評価になっており、関係者が事業実施の意義を再確認する必要があると思う。</li> </ul>	
その他の外部評価委員会の意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>直接事業費は市の事業費全体が表示されていて、支所ごとに分割されていない。しかし補助金支給の選考委員会は支所が行っているなど、かなり管理面でちぐはぐな感じを受ける。どちらが受け持つにしても、予算執行の管理責任者を明確にして、市民に分かりやすい事業執行体制の構築を願う。</li> </ul>	

今後の方向性に対する総合評価の結果（市の回答）

今後の方向性	方法改善
<p>今後の対応方針</p>	<p>平成 25 年度からは各総合支所地域支援課と連携し、市民団体等の活動事業に対して、コーディネート等の支援を実施しております。</p> <p>また、各団体からの補助金申請の際には各総合支所で審査に必要な事前チェックを行い、審査については、平成 25 年度から全市一本化した選考委員会を設置し、公平かつ、補助制度をより有効活用が図れるよう制度の運用改善を行っています。</p> <p>今後につきましても、引き続き全市一本化した選考委員会での審査等を通じ有効活用が図れるよう取組むとともに、「協働」を進めていくうえで、地域が抱えている課題、市民団体の活動等における課題の把握を通じ、その解決に繋がるよう、補助制度の検討も含め、より利用し、効果的な運用が図れるよう取り組んでいきます。</p>
<p>評価結果に対する考え方</p>	<p>ご指摘のとおり、今後においても総合支所単位での審査は考えておりません。また、予算執行についても一元管理が望ましいと考えており、市全体で補助制度の有効活用を図ります。</p> <p>市民活動を育成、支援するうえで重要な役割を担う事業であることも認識しており、実態に即した運用及び制度主旨を踏まえて、より有効活用が図られるよう取り組みます。</p> <p>また、事業の妥当性等の評価結果はご指摘のとおりであり、事前に考え方等のすり合わせが必要であったと反省しております。</p> <p>今後は、審査の一元化を図ったことから、事務事業評価についても一元化を行います。</p>
<p>今後の事業の進め方</p>	<p>各区を通じ、区内の地縁型組織への補助制度有効活用の促進及び目的型組織である市民団体向けにもその活用について啓発と並行し、各総合支所地域支援課と連携して、市民団体等が行う補助事業へのコーディネートを行います。</p>

## お問い合わせ先

対象事務事業名		担当部署 連絡先
1	有害鳥獣対策事業	農林部 耕地林務課 林務担当 77-3111 内線 1212～1215
2	林業振興事業	農林部 耕地林務課 林務担当 77-3111 内線 1212～1215
3	地域農産物の需要拡大事務	農林部 農政課 庶務担当 77-3111 内線 1241～1242
4	交通安全対策事業	市民環境部 生活環境課 交通防犯係 82-3131 内線 254～255
5	予防接種事業	健康福祉部 健康推進課 健康推進係 81-1622 内線 510、520
6	特別保育事業	健康福祉部 児童保育課 保育係 81-1622 内線 420
7	下水道施設整備事業	上下水道部 下水道課 下水道整備担当 72-3111 内線 1312～1313
8	商工振興事業	商工観光部 商工労政課 工業振興担当 82-3131 内線 282～283
9	消防団運営事業	総務部 危機管理室 消防防災担当 72-3106 内線 111～113
10	収納管理事務	総務部 収納課 管理担当 72-3111 内線 1621～1623
11	学校給食・管理事業	教育委員会 学校給食課 学校給食係 72-2674 (直通)
12	社会体育施設管理運営事務	教育委員会 社会教育課 スポーツ振興係 62-4565 内線 221～224
13	耐震化の推進事業	都市建設部 建築住宅課 住宅係 72-3111 内線 1274～1275
14	道の駅管理事務	都市建設部 監理課 管理登記担当 72-3111 内線 1214～1216
15	福祉医療給付事業	健康福祉部 社会福祉課 福祉総務担当 81-1622 内線 210～212
16	協働のまちづくり推進事業	企画財政部 まちづくり推進課 まちづくり担当 71-2000 内線 1441～1442

○行政評価制度担当部署 企画財政部 企画政策課 企画担当

電話 0263 - 71 - 2000 内線 1412～1413